

体の内側からアプローチ ～高濃度ビタミンC点滴治療を取り入れる

山下理絵 YAMASHITA Rie

湘南藤沢形成外科クリニックR総院長

はじめに

美容医療のなかでも、アンチエイジング医療は、体の内側、外側の2本の柱に加え、その両方からのアプローチが必要である。外側からのアプローチは、われわれが得意とするアプローチで、「見た目」を改善するレーザーや注入、スキンケアなどが中心となる治療である。フェイスリフトなどの手術方法も含まれる。

内側からのアプローチは、おもに内科的な薬剤による治療、サプリメント、ホルモン補充、そして、高濃度ビタミンCやキレーションなどの点滴治療などがある。最近では、高濃度ビタミンC点滴をがん治療に行っていた際、その美白作用に驚く症例を経験した(図1)。

本稿では、美容診療で取り入れやすい高濃度ビタミンC点滴治療に関して述べる。

1 ビタミンCの摂取

ヒトは、皮膚のコラーゲン合成に必須であるビタミンCを、体内では作ることができない。そのため、外側からの補充を要する。ビタミンCを多く含む食品として思い浮かぶのは、レモンやイチゴなどの果物であるが、意外にもその含有量は少ない。多い食品は、赤ピーマン(130g)1個で220mg、芽キャベツ5個(100g)で160mgなどである。厚生労働省は生活習慣病の予防から、1日の推奨量を100mgとしている。食事から摂取したビタ

ミンCも、サプリメントから摂取したビタミンCも、その相対生体利用率に差異はない。また、吸収率については200mg/日程度までは90%と高く、1g/日以上になると50%以下となる。大量に経口摂取しても吸収が悪く排泄される。経口で0.2g摂取すると血中濃度は1.2mg/dL、1.2g摂取しても1.5mg/dLと、経口量を6倍に増やしても血中濃度は25%しか増えない。しかし、点滴だと血中濃度は経口より20倍以上増える。また、大量経口摂取では鉄イオンの吸収を促進し、活性酸素を増やす原因ともなり得る。ビタミンCには抗酸化作用があり、さらにメラニン色素合成抑制、コラーゲン合成促進作用がある。美白作用、美肌維持にも有効であるため、効率的に摂取する高濃度ビタミンC点滴は多くの施設で行われている。

2 高濃度ビタミンC点滴

がん治療では、1回75～100gを使用するが、美容目的には1回10～25gの投与で十分な効果があり、また安全である。高濃度ビタミンC点滴は合併症が少ない治療であるが、行う際の注意が3点ある。

1つ目は、国産の注射剤にはピロ亜硫酸ナトリウム、チオグリコール酸ナトリウムなどの防腐剤が添加されているため、冷所保存の海外製品を使用すること(図2)である。

2つ目は、大量投与ではビタミンB群は混注しないことである。ビタミンCの点滴後に尿中過酸化水素を経時的に測定したところ、ビタミンB群を投与した例で過酸化